

本 会 記 事

1 昭和54年度総会ならびに研究発表会

四国植物防疫協議会の昭和54年度総会および研究発表会は、約140名が参加し、11月14日に高知市の高知第1ホテルで開催された。

(1) 総 会

午前10時から開会され、昭和53年度会務報告が承認されたのち、昭和54年度事業計画ならびに予算案が上程され、承認された。

(2) 研究発表

11時から14時30分まで、つぎの課題について研究発表が行われた。

須藤真平・岡田小太郎・幸山 弘・三宅克彦：大豆畑におけるキジバトの被害実態と防止

吉岡幸治郎・高橋 進・土居隆洋・垂水忠明：コガネムシによるサトイモの被害と防除

北村正和・井上 孝：単花処理法による促成ナスの灰色かび病の防除について

衣川 勝：香川県における薬剤耐性菌の出現状況

重松喜昭・松本英紀：幼苗ばくろによる野菜病害の発生予察に関する研究

1. キュウリ苗ばくろによるCMV・WMVの発消長調査

森 介計・荻原洋晶：ミカンハダニの増殖に及ぼす人工降水の影響

葛西辰雄：土壌施肥によるカーネーション・スリップスの防除

小川 宏・松崎征美：イグサに発生したイネネモグリセンチュウとその防除について

桐谷圭治・宮井俊一：シュミレーションによるツマグロヨコバイ薬剤抵抗性の発達予測と防除戦略の決定

(3) 協 議

14時30分から17時まで、本年度特異的な発生をした病害虫とその対策ならびに防除上の問題点について、谷 幸泰、野田弘之、武智文彦、北添康真の諸氏が報告（要旨は80～83頁）された。また、灰色かび病の薬剤耐性（施設野菜、果樹）について、古谷真二、橋 泰宣の両氏に話題提供（要旨は84～88頁）していただき、活発な討議が行われた。

2 明年度総会

昭和55年度総会は、愛媛県が担当し、今秋開催の予定である。なお、今年度は設立30周年に当るので、意義のある大会としたい。